

本部長就任挨拶

共創の輪を 広げよう

この度、本年 7 月の公益社団法人日本技術士会理事會にて承認され、大熊前本部長のあとを引き継いで北海道本部長に就任致しました。どうぞよろしくお願いいたします。

新型コロナが 5 類に移行し、我々技術士会の活動もコロナ以前と同様のレベルに戻りつつあります。

このコロナ禍の渦中であって、我が国では第 6 期科学技術・イノベーション基本計画が始まり、今年はこの 5 カ年計画の中間年にあたります。この計画の中には、「共創」のキーワードが数多く盛り込まれております。共創とは、文字通り共に創り上げるという意味で、中でも特に目を引くのは「産学官共創」です。産学官と言え、ば、「産学官連携」という用語が思い浮かびますが、これが世の中に登場して既に 20 年が経過しており、当時は我々技術士も、産学官の連携のために、技術士の社会貢献が活動テーマのひとつになっておりました。前々回の札幌の技術士全国大会テーマが「社会貢献」だったのを覚えている方もいらっしゃるかと思います。

今回の産学官共創は、この産学官連携の役割をより強化した形で、異分野間の融合や新事業の創出、産学官の連携のノウハウやネットワーク共有といった課題解決に、「連携」から更に進んで「共創」に至る行動が必要という認識でしょう。これはすなわち、大学や研究機関が開発した技術を、いかに社会実装して価値を生み出していくかという点が課題解決に資するポイントであり、ここに我々エンジニアが果たすべき役割も、益々重要度を増しているのではないのでしょうか。

技術士会の活動としては、部門ごとの各部会活動

金 秀俊(こん ひでとし)

技術士(応用理学/総合技術監理部門)

公益社団法人 日本技術士会
北海道本部 本部長



が、それぞれの専門分野の技術課題を検討する上で重要ですが、一方、地方においては、それぞれの地域が抱える社会的課題解決のために、様々な角度から検討するような概念も重要ではないかと思うのです。その意味で、北海道本部が行っている 6 つの研究委員会活動は、北海道特有の研究テーマや課題解決に、産学官や部門の垣根を超えて取り組んでいるもので、これはまさに産学官共創の理念とも大いに合致するものと自負するものであります。

日本技術士会北海道本部では、このような産学官の共創に必要な技術者同士の絆を強め、また、技術者がその高い能力を維持していけるよう、継続研鑽による資質向上(CPD)の機会を数多く生み出しております。

この冊子の読者諸氏も、ぜひ我々の活動にご興味を持ち、共創の輪に加わっていただければと強く思う次第です。

末尾になりますが、私の本部長任期中に、技術士全国大会 2024 が札幌で開催されます。大会テーマは「共創の大地・北海道から始まる技術士の挑戦～ミライの豊かさを実現するために～」となりました。大会に向けて、皆さんの共創の輪を広げ、その輪が、高齢化・人口減少の“先進地”であるこの北海道において、Society5.0 の実現を目指す社会を推進していく動輪になれるよう、技術研鑽を重ねようではありませんか。

私も大会委員長として、大会が盛会となるよう頑張ります。会員・会友の皆様はじめ関係諸氏には、ぜひ力をお貸し下さりますよう心からお願い申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。